

HERAT & HEART

－ ちょうせんする子

うんどうを楽しむ子

なんでもやりぬく子 －

長南町立長南小学校
生徒指導部 だより
令和6年7月3日発行
第1号

早いもので、夏休みまでもう少しとなりました。今年は遅い梅雨が始まり、蒸し暑い日々が続いていますが、子どもたちは毎日元気に過ごしています。天気の良い日には、「今日こそは！」とばかりに、外で意欲的に遊んでいる様子が見られます。その姿に、子どもたちのパワーを感じます。

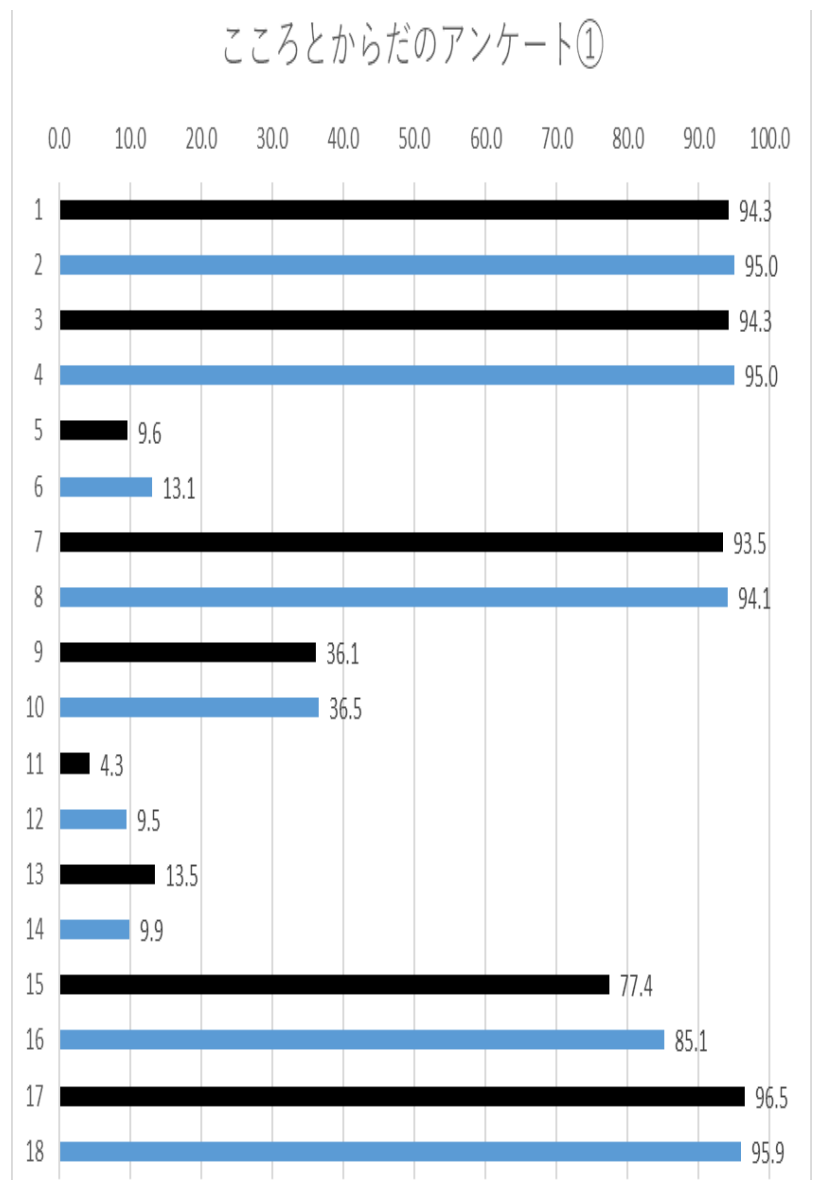
さて、長南小学校では、今年度も定期的に「こころとからだのアンケート」を実施し、子どもたちの思いをしっかりと把握していきます。また、その結果から分かること等を生徒指導部よりお知らせします。さらに、アンケートの結果以外にも、子どもたちの学校生活の様子についても掲載していきます。

今回は、5月に子どもたちに実施した1回目のアンケート集計結果を報告させていただきます。

アンケート結果と考察

- Q 1 夜はよく眠れている。
グラフ1：R6. 2月
グラフ2：R6. 5月
- Q 2 食事はきちんと食べている。
グラフ3：R6. 2月
グラフ4：R6. 5月
- Q 3 自分の体のことで心配なことがある。
グラフ5：R6. 2月
グラフ6：R6. 5月
- Q 4 楽しくて集中できることがある。
グラフ7：R6. 2月
グラフ8：R6. 5月
- Q 5 イライラしやすい。
グラフ9：R6. 2月
グラフ10：R6. 5月
- Q 6 学校生活に不安がある。
グラフ11：R6. 2月
グラフ12：R6. 5月
- Q 7 4月から今まで、友だちにいやなことをされたり言われたりした。
グラフ13：R6. 2月
グラフ14：R6. 5月
- Q 8 こまったときに相談できる人がいる。
グラフ15：R6. 2月
グラフ16：R6. 5月
- Q 9 学校に仲良しの友だちがいる。
グラフ17：R6. 2月
グラフ18：R6. 5月

こころとからだのアンケート①



【考察】

- 昨年度に引き続き、「夜はよく眠れている」と「食事はきちんと食べている」の項目で、高い値を示しています。これは、保護者の方のご協力のおかげによるものです。引き続き、ご協力をお願いします。
- 「自分の体のことで心配なことがある」と答えた児童が少しですが増加しました。私たち大人が、相談しやすい環境を整えることに加え、子どもたちの心や体の変化を見逃さないようにすることが大切です。ご家庭と学校とが協力して、お子さんを支えていきたいと思えます。
- 「友だちにいやなことをされたり言われたりした」の項目が減少した一方で、「学校生活に不安がある」の項目が増加しました。子どもたちの心や体の成長など、様々な面で不安が増加しているように感じます。自分で解決できないものについては、担任まで相談していただければと思います。また、長南小学校には、担任以外にも、心の相談窓口として、「中村(喜)教諭、杉崎教頭、松本養護教諭」の3名の職員がおりますので、お気軽にご相談ください。

※以上が今回のアンケート結果と考察になります。ご家庭でも、上記の項目について話をしてみてください。

☆子どもたちが安心できる学校に☆

学校では、今回のようなアンケートを取ったり、日頃の子どもたちの様子を観察したりして、「いじめ」のない学校を目指して指導を続けています。

(「いじめの定義」については本校ホームページの「いじめ防止基本方針」を参照ください。)

認知の方針としては、

- ① 保護者の方からの連絡帳や電話によるご報告で、子ども同士のトラブルを把握したもの
- ② アンケートでの子どもからの訴え
- ③ 職員が児童間のけんかやトラブルで指導したもの となります。

(ただし発生場所は学校内外を問いません)

また、一定期間の継続的観察を経て、解消と判断します。(重大事案でない限り、原則3か月です)
集団生活をしている以上、トラブルは当然起こります。一つ一つの問題に対して、職員が丁寧に対応し、子どもたちが安心して楽しく過ごせる長南小学校にしていきたいと思えます。

子どもたちの健やかな成長のために

長南小学校の子どもたちは、「たくましさ・素直さ・優しさ」を兼ね備えているように感じます。学校行事に意欲的に取り組んだり、進んでボランティアに励んだり、学校のきまりを守って友達と仲良く過ごしたりなど、それぞれ自分にできることを日々実践しています。

長南小学校では、今年も「元気なあいさつ」と「正しい廊下・階段歩行」について指導しています。保護者の方のご協力もあり、落ち着いて生活できる子どもたちが増えてきたところです。しかし、「元気なあいさつ」については、「元気な声で自主的に行う」という点で課題が残ります。特に朝は元気がない子が多く見られます。気持ちの面が大きいと思えますが、挨拶は大切なコミュニケーションの一つです。「相手の立場になって行う」ということを大切にしたいものです。

話は変わりますが、お子さんは「忘れ物」が少ないですか。この時期の子どもたちは学校生活に慣れ、「気のゆるみ」が出がちになります。6年間の小学校教育では、「自立への基盤づくり」を目指しています。お子さんの成長とともに保護者の方の関わり方も変わってきます。始めは「手をかけて」、次に「声をかけて」、そして「目をかけて」。まだ自分一人で持ち物の確認ができないうちにそうしてしまっても、できるようにはなりません。逆に、一人でできるようになってきたのに、手をかけ過ぎては自立できません。今のお子さんには、「手・声・目」のどの段階の支援が適切なのか、これをきっかけに考えていただくと幸いです。家庭も学校も「小さな社会」です。お子さんが、一人の立派な人間として「自分のことは自分で責任をもつ」という意識を高めることができるように、学校でも助言・指導をしていきます。ご協力をお願いします。